

## 桜ヶ丘地区コミュニティバス実証運行の利用実績について

### 1. 桜ヶ丘地区コミュニティバスの利用実績

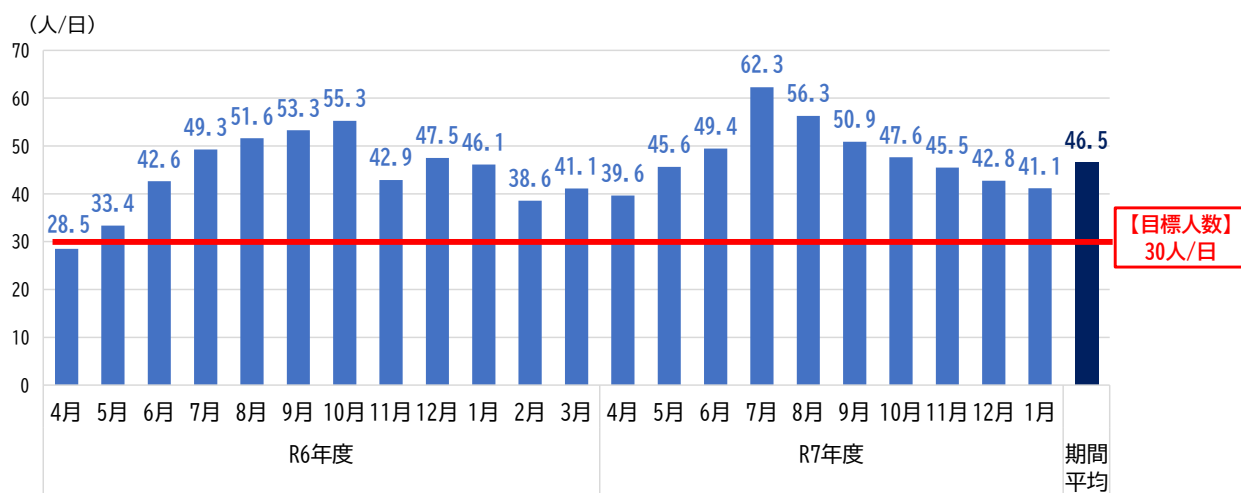
令和6年4月22日から実証運行を開始した桜ヶ丘地区コミュニティバスの利用状況を報告する（集計対象期間：令和6年4月22日～令和8年1月31日）。

なお、桜ヶ丘地区コミュニティバスは令和8年度より本格運行を開始することが決定している。

#### 1.1 月別の乗車人数の推移

- ・1日あたりの乗車人数は、実証運行が進むにつれ増加し、令和6年5月以降は目標人数を上回っている。令和7年7月は運行開始以降で最も利用が多く、8月以降は減少傾向にあるが、令和8年1月も目標人数を上回る乗車人数を維持している。
  - ・運行期間の平均乗車人数は46.5人/日であり、目標人数を上回っている。
- ※目標人数：市負担割合が7割となる場合の日平均乗車人数

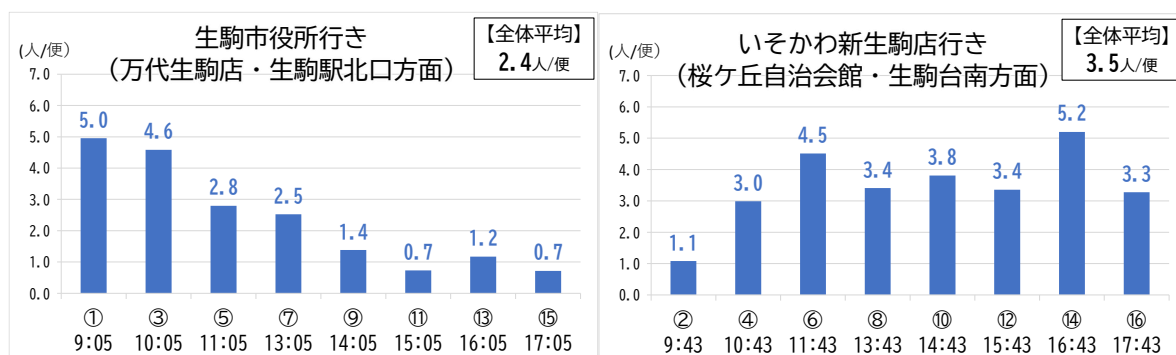
#### 【月別の1日あたりの乗車人数の推移】



#### 1.2 ダイヤ別の乗車人数

- ・生駒市役所行きと比較して、いそかわ新生駒店行きの利用が多い。
- ・生駒市役所行きは、始発便の9:05 発の利用が最も多い。10:05 発から 14:05 発と 16 時台は 1.0 人/便を上回る利用があるが、15 時台や 17 時台は利用が少なくなり 1.0 人/便未満である。
- ・いそかわ新生駒店行きは、11:43 発と 16:43 発の利用が特に多い。11:43 発以降の便は利用が多く、3.0 人/便を上回っている。

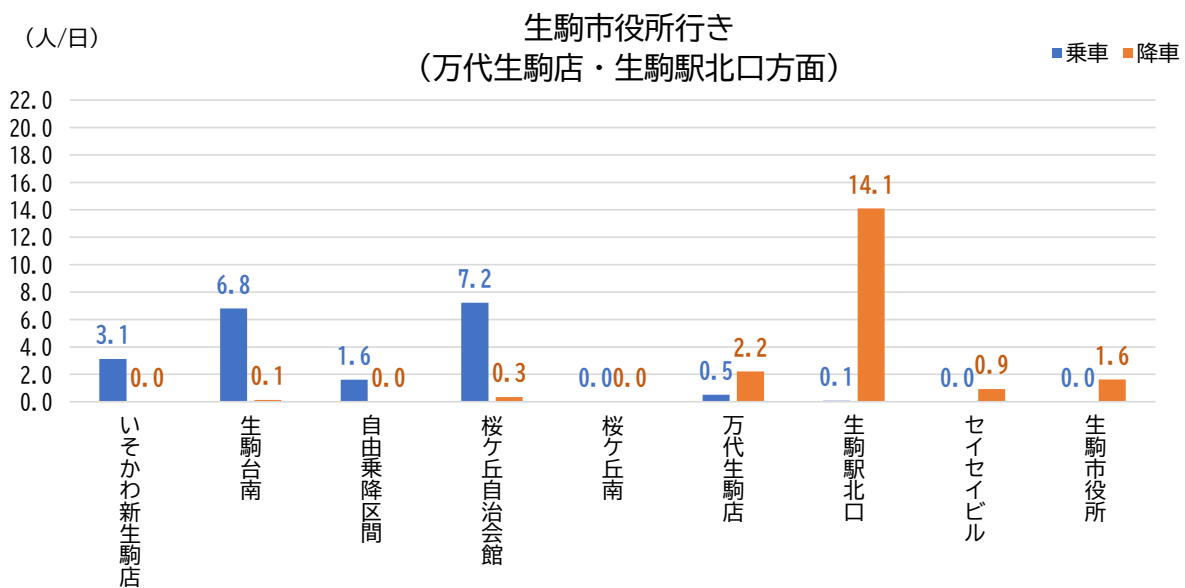
#### 【ダイヤ別の1便あたりの平均乗車人数】



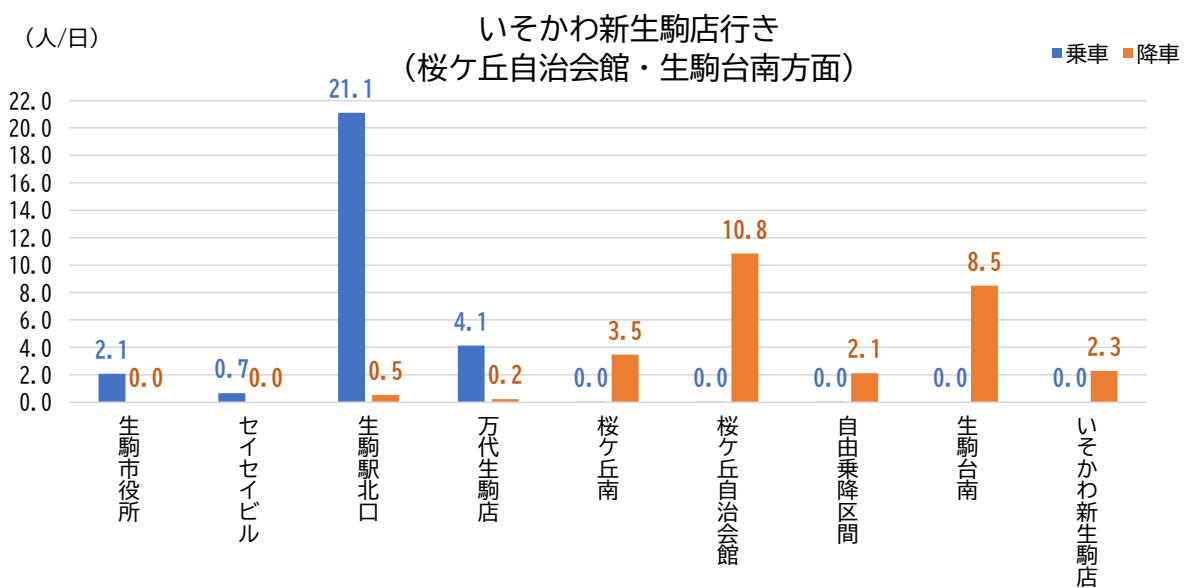
### 1.3 バス停別の乗降人数

- ・生駒市役所行きは、乗車人数は桜ヶ丘自治会館が最も多く、次いで生駒台南が多い。降車人数は生駒駅北口が最も多い。
  - ・いそかわ新生駒店行きは、乗車人数は生駒駅北口が最も多い。降車人数は桜ヶ丘自治会館が最も多く、次いで生駒台南が多い。
- ※自由乗降区間は令和6年5月末まで利用者数をカウントできていなかったため、全バス停について令和6年6月以降の結果を示す。

【バス停別の1日あたりの平均乗降車人数 生駒市役所行き】



【バス停別の1日あたりの平均乗降車人数 いそかわ新生駒店行き】



### 1.4 利用状況（まとめ）

- ・運行開始月は目標人数(30人/日)を達成していなかったが、令和6年5月以降は目標人数を上回る乗車人数を維持している。また、運行期間の平均乗車人数をみると、目標人数を上回っている。
- ・生駒市役所行きは、始発便(9時台)の利用が最も多く、15時以降の利用が少ない。一方、いそかわ新生駒店行きは、生駒市役所行きよりも利用が多く、11時以降の便の利用が多い。
- ・方面別の利用は、登り坂や買い物の荷物の関係で、いそかわ新生駒店行き（北行）の利用が多い。バス停は、生駒駅北口、桜ヶ丘自治会館、生駒台南の利用が多い。

### 1.5 利用促進策の実施について

- ・利用促進策として、以下の取組について実施した。
  - ① 回数券の導入
    - ・大人：2,000円11枚綴り、小学生・障がい者：1,000円11枚綴り
    - ・令和6年9月2日から利用開始
  - ② 自治会回覧を実施
    - ・桜ヶ丘自治会、生駒台自治会へ回覧を実施
    - ・回数券利用開始のお知らせ、利用状況の共有、ご利用案内の添付
  - ③ 桜ヶ丘自治会が回数券の割引販売を実施
    - ・桜ヶ丘自治会が回数券需要調査を実施
    - ・自治会員限定で割引販売
  - ④ PayPay支払の導入
    - ・令和6年11月7日からPayPay支払を導入
    - ※桜ヶ丘線で実証実験を実施し、課題整理等を行う。

【PayPay支払額の推移】

